

平成31年度『全国学力・学習状況調査』
座間市立小・中学校全体の結果と傾向

国語・算数・数学・英語・児童生徒質問紙からみた傾向

座間市教育委員会

令和元年11月

小学校 国語

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

話すこと・聞くこと

- ◆ 目的に応じて、質問を工夫することに課題がある。
- ◆ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題がある。

書くこと

- ◆ 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。

読むこと

- ◆ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。
- ◆ 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことに課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。
- ◆ ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題がある。

【育てたい力】

国語の能力の根幹となる、適切に表現する能力と正確に理解する能力、そして伝え合う力を育てたい。

このような言語能力を育成することで、一人一人の児童が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりすることができるようにする。

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- 話の展開に沿って、目的に応じた質問をする
 - ・情報を集めるためにインタビューをするとは、目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出すことである。その際、話の目的は何か、相手が自分に対して伝えたいことは何かなどの話の内容や話し手の意図を踏まえて十分に聞き取るとともに、インタビューをする自分はどうのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように活用しようとしているのかなどを明確にして聞くことが重要である。
- 目的を明確にして情報を関係付けながら聞き、自分の考えをまとめる
 - ・インタビューにおいて自分の考えをまとめるとは、相手が話した内容と自分の経験や考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、考えをまとめることである。自分の考えをまとめるためには、相手からどのような情報を聞き出し、その情報をどのように活用するのかのように、インタビューの目的を明確にもって聞くことが重要である。

書くこと

- 情報を相手に分かりやすく伝えるために記述の仕方を工夫する
 - ・自分が伝えたい情報を相手に分かりやすく伝えるためには、収集した情報の中から必要な内容を整理して書くことが重要である。そのためには、誰にどのような目的で伝えようとして書くのかを明確にすることが大切である。

読むこと

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む
 - ・目的に応じて、「文章の内容を的確に押さえ」るためには、何のために、何を知りたいのかどのような情報が必要なのかなどを明確にした上で、文章に書かれている話題、筆者の考えとその理由や事例となっている内容、構成の仕方などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読むことが大切である。
- 必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読む
 - ・高学年になると、自らの課題を解決するための必要な情報を得るために様々な本や文章を取捨選択しながら読む活動が増えてくる。その中でも調べる学習などを行う際に利用する図鑑や辞典などについては、目次や索引を利用することが効果的である。目次は、本全体で何が書かれているのかを概観することができる。索引は、本に掲載されている事柄や言葉などから検索して読むことができる。本や文章全体から必要な情報を得るための効果的な読み方を身に付け、活用できるようにすることが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文や文章の中で、漢字を正しく使う
 - ・漢字の学習指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切である。そのためには、繰り返し練習することにとどまらず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。
- 日常生活で使うことができるように、ことわざや慣用句の意味や使い方を正しく理解する
 - ・ことわざや慣用句の意味や使い方を正しく理解し、日常生活における表現の中で使うことができるようにすることは、児童の語彙を増やし、表現を豊かにする上で大切である。そのためには、普段から辞典で意味や使い方を確認し、ノートやカードに記録するなど、実感をもって捉えたり使ったりできるようにすることが重要である。

小学校 算数

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と計算

- ◇示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することについては、概ね良好である。
- ◆加法と乗法の混合した整数と小数の計算することに課題がある。
- ◆示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述することに課題がある。

量と測定

- ◇資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することについては、概ね良好な結果である。
- ◆示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうか判断することに課題がある。

図形

- ◆図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することに課題がある。

数量関係

- ◇棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることについては、概ね良好である。
- ◆目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことに課題がある。

【育てたい力】

算数では、児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数的な活動の中で、問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を育てたい。また、児童が、算数的活動の楽しさやよさに気付き、生活や学習の様々な場面で進んで活用しようとする態度を育てたい。算数の学習で身に付けた知識や技能を活用することによって、学習が意味あるものとなり、算数のよさについて実感を伴って味わうことができるようにする。

○指導改善のポイント

数と計算

- 計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにする
 - ・計算の順序についてのきまりは、単に暗記させるだけでなく、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにすることが重要である。また、計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにするために、四則を混合させたり（ ）を用いたりして一つの式に表すことができるようにすることも重要である。

量と測定

- 場面の状況に応じて、数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断することができるようにする
 - ・日常生活において、場面の状況に応じて、物事を判断したり、解決過程や結果を振り返り、判断したことをより適したものに改善したりすることができるようにすることが重要である。その際、場面の状況を解釈し、数量の関係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断することができるようにすることが大切である。
- 計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする
 - ・適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば商が同じになる幾つかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見いだす活動が考えられる。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げていきながら、見いだしたことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが大切である。

図形

- 図形の性質や構成要素に着目して、基本的な平面図形を組み合わせて構成した図形を考察することができるようにする
 - ・色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが重要である。その際、図形の性質や構成要素に着目して考察することができるようにすることが大切である。

数量関係

- 日常生活の問題解決のために、伴って変わる二つの数量を見いだすことができるようにする
 - ・日常生活の問題の解決のために、ある一つの数量を調べようとするとき、その数量を直接調べにくい場合は、それと関係のある他の数量を使って調べられないかと考えて事象を観察し、伴って変わる二つの数量を見いだすことができるようにすることが重要である。その際、一方の数量を決めれば他の数量が決まるかどうか、あるいは、一方の数量は他の数量に伴って一定のきまりに従って変化するか、というような見方で二つの数量の関係を見ていくことができるようにすることが大切である。

【児童質問紙からみた傾向】 小学校

本市の児童の回答結果については、全国・神奈川県の結果とほぼ同様でした。

なお、傾向としては、次のことが挙げられますが、座間市教育大綱や学校教育の重点目標の教育効果があらわれた結果となりました。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

◇「学校のきまりを守っている。」と答えた児童の割合が多かった。

「豊かな心を育むひまわりプラン」の「ごまっ子八つの誓い」には、「約束や決まりは、いつでもしっかり守ります」というものがあります。多くの人がお互いを大切にし、気持ちよく生きていくためには、ルールを守ることが必要であるということを、学校や家庭において、あらゆる機会を通じて指導をしていることがあらわれたものと思われます。

◇「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。」と答えた児童の割合が多かった。

学校では、様々な学習場面で、一人一人の意見や考えを大切にしながら学び合いや言語活動の機会を設けるようにしています。仲間と互いの意見や考えを伝え話し合い、互いを尊重しながらより良い解決策を練り上げることは、相互理解や集団生活の充実につながるるとともに、「豊かな心を育むひまわりプラン」の「こんな大人になってほしい」にある「正義を尊び、自らを律し、責任ある行動をとる」ことにもつながります。

◇「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを活用している」と答えた児童の割合が多かった。

本市では、ICT環境を整備し、ICT機器を適切な場面で効果的に活用することで、わかりやすい授業を展開できるよう推進を図っています。

ICT機器の普及した社会において、児童が情報や情報機器を主体的に選択・活用したり、情報を適切に発信・受信したりしていくための基礎的な資質や能力、情報モラルの育成にも努めていきます。

◇「朝食を毎日食べている」と答えた児童の割合が多かった。

これは、日頃から家庭で朝食を食べること、生活習慣を整えることに対して高い意識を持っていただいている結果であると捉えています。

文部科学省では、地域社会や学校、家庭が一体となって取り組む「早寝早起き朝ごはん」運動を展開しており、本市でも「豊かな心を育むひまわりプラン」の「家庭では」の欄に、『「早寝、早起き、朝ごはん」を合言葉に、生活習慣を整えましょう』と示しています。

朝食を食べることは、心も体も健康に保つために大切なことです。学校では、今後も栄養のバランスや規則正しい食生活など食に関する指導を行っていきます。家庭でも、引き続きご協力をお願いいたします。

- ◆「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか。」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童の割合がやや多かった。

本や文章を読むとき、今までの読書経験や体験などをもとに、内容や表現を想像したり比較したりしながら、自分の目的や意図に応じて考えをまとめたり深めたりすることが大切です。

国語の授業では、学習内容を系統的・段階的に上の学年につなげていくとともに、繰り返し学習しながら、児童の読む力を高めていく必要があります。また、読書活動を学校・家庭・地域社会が一体となって推進していくことは、読む力を高めるとともに、幅広い知識を身に付け豊かな心を育むことにつながりますので、今後も児童への働きかけなどの継続的な取組に努めていきます。

- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童の割合がやや多かった。

「豊かな心を育むひまわりプラン」の「学校では」に、「地域の方々との交流を通して、地域を大切にすることを育てます」というものがあります。

学校でも地域との交流を大切にしておりますが、ご家庭でも地域の行事に積極的に参加するように声掛けをしていただければと思います。

自分の住んでいる地域を大切に思う気持ちは、自分を大切に思う気持ちにつながっていきます。

中学校 国語

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

話すこと・聞くこと

- ◆ 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことに課題がある。
- ◇ 相手に分かりやすく伝わる表現について理解することについては、おおむね良好な結果である。

書くこと

- ◆ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することに課題がある。
- ◆ 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことに課題がある。

読むこと

- ◆ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことに課題がある。
- ◆ 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。
- ◆ 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことに課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◆ 封筒の書き方を理解して書くことに課題がある。
- ◆ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することに課題がある。

【育てたい力】

国語の能力の根幹となる、適切に表現する能力と正確に理解する能力、そして伝え合う力を育てたい。

このような言語能力を育成することで、一人一人の生徒が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりすることができるようにする。

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- 参加者全員が話し合いの話題や方向を捉えて話し合う
 - ・話し合いをする際には、誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのかを理解し、今は何について話し合っているのかを捉え、それに応じて話すように指導することが引き続き大切である。
- 相手に分かりやすく伝わる表現を用いて話す
 - ・自分の考えをわかりやすく相手に伝えるには、話し合いの話題や方向を捉えた上で、話題に対する自分の立場や考えを明確にするとともに、そのような立場や考えであること理由について話すように指導することが大切である。
- 話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつ
 - ・話し合いをする際には、話題や方向を的確にとらえ、自分の考えをもちながら参加するように指導することが大切である。

書くこと

- 伝えたい事柄が読み手に分かりやすく伝わる表現になっているかどうかを検討する
 - ・目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることなどに留意して書くように指導することが大切である。
- 自分の考えが、読み手に分かりやすく伝わるように書く
 - ・説得力のある文章にするためには、自分の考えを支える根拠を明確にして書くように指導することが大切である。その際、自分の考えを支える根拠として、複数の実例や専門的な立場からの知見などを示すように指導することも重要である。

読むこと

- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる
 - ・説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えたり、簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方や婉曲な述べ方、さらに中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係などの文章の表現の仕方について考えたりすることが大切である。
- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を的確に理解する
 - ・説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉え、内容を的確に理解するように指導することが大切である。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。
- 文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ
 - ・文学的な文章を読む際には、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方をもつように指導することが大切である。その際、書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくように指導することが重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 手紙の基本的な形式を理解し、文字の大きさや配列に注意して書く

- ・手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むために重要である。その際、相手の名前を他の文字より大きく書くことなど、手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせることが大切である。

○ **具体的な場面や状況に基づいて考える語句の指導の工夫**

- ・語感を磨き、語彙を豊かにするためには、事象や行為などを表す多様な語句を、目的や場面に応じて適切に使うことができるように指導することが大切である。

中学校 数学

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と式

- ◇ 総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することについては、おおむね良好な結果である。
- ◆ 簡単な連立二元一次方程式を解くことに課題がある。

図形

- ◇ 平行移動の意味を理解することについては、おおむね良好な結果である。
- ◆ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

関数

- ◆ 反比例の表から x と y の関係を式で表すことに課題がある。
- ◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

資料の活用

- ◆ 簡単な場合について、確率を求めることに課題がある。
- ◆ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【育てたい力】

数学教育では、事象を数理的に考察し表現する能力を高めることが大切である。事象を数理的に考察することは、日常生活や社会における事象と数学の世界における事象とを対象とするものである。それぞれの場面の特性を捉え、事象を数理的に考察する能力を高めるようにすることが必要である。事象を数理的に考察する課程やその成果についての認識は、表現することによって深められる。数や図形などの性質を的確に表したり、根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり、自分の思いや考えを伝え合い、それらを共有したり質的に高めたりできる力を育てていきたい。

○指導改善のポイント

数と式

- 連立二元一次方程式を工夫して解くことができるようにする

- ・連立二元一次方程式を解く場面において、2つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次方程式に帰着させて解くといった方針に基づいて、加減法や代入法を用いて解くことができるように指導することが大切である。
- **連立二元一次方程式を用いて問題を解決することを通して、数学を利用することのよさや意義を実感できるようにする**
 - ・具体的な問題を連立二元一次方程式を活用して解決する際に、問題の中の数量を整理し、その中から2通りに表すことができる数量を見いだして、2つの変数を用いた連立二元一次方程式をつくり、それを解き、求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求めるといった一連の活動を経験することにより、数学を利用することのよさや意義を実感させることが大切である。

図形

- **結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする**
 - ・与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。

関数

- **反比例の表から変化や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を式で表すことができるようにする**
 - ・表と式を関連付ける活動を取り入れ、反比例における比例定数や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を式で表すことができるように指導することが大切である。
- **具体的な事象について、 x と y の関係を数学的に表すことができるようにする**
 - ・比例、反比例の特徴を見だし考察する際に、その比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現できるように指導することが大切である。
- **問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする**
 - ・様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるように指導することが大切である。

資料の活用

- **樹形図や二次元の表などを利用して起こり得るすべての場合を数え上げ、確率を求めることができるようにする**
 - ・起こり得る場合の数を基にして確率を求めるには、同様に確からしいと考えられる起こり得るすべての場合を正しく求めることができるように指導することが大切である。
- **確率を用いて不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断することができるようにする**
 - ・不確定な事象を捉え考察する際に、同様に確からしいことに着目し、起こり得る場合の数を基にして確率を求め、その確率を用いて説明できる事柄を明らかにするという活動を取り入れることが大切である。
- **資料の傾向を捉えて、様々な視点から考察し判断した理由を、数学的な表現を用いて説明できるようにする**
 - ・代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、様々な視点から考察し判断できるように指導することが大切である。ここで、批判的に考察することとは、物事を単に否定することではなく、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすことである。

中学校 英語

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

聞くこと

- ◇ 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることについては、おおむね良好な結果である。
- ◆ まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することに課題がある。

読むこと

- ◇ まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することについては、おおむね良好な結果である。
- ◇ まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することについては、おおむね良好な結果である。

書くこと

- ◇ 文の中で適切に接続詞を用いることについては、おおむね良好な結果である。
- ◇ 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことについては、おおむね良好な結果である。
- ◆ 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことに課題がある。

【育てたい力】

外国語によるコミュニケーション能力の育成については、小学校における外国語活動で育まれた素地の上に、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの四つの技能をバランスよく育てることが大切である。

言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を身に付けさせるだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができるコミュニケーション能力の基礎を養いたい。

○指導改善のポイント

聞くこと

- **まとまりのある英語を聞いて、話の概要を聞き取る**
 - ・話の特定の部分にとらわれることなく、全体像をつかみ取るような聞き取りをする必要がある。
 - ・場面設定を工夫し、聞いた後に大まかな内容を説明するなど、何のために聞くのか目的をはっきりとさせたいうえで、聞き取りのためのポイントを示したり、ポイント自体を生徒自身に考えさせたりすることが大切である。

書くこと

- **与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く**
 - ・特定の言語材料のみを用いて文を書かせるだけではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置付ける必要がある。
 - ・生徒の誤りについて、生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、学習内容の理解が深まり、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要である。

【生徒質問紙からみた傾向】 中学校

本市の生徒の回答結果については、全国・神奈川県の結果とほぼ同様でした。

なお、傾向としては、次のことが挙げられますが、座間市教育大綱や学校教育の重点目標の教育効果があらわれた結果となりました。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

◇「学校の規則を守っている。」と答えた生徒の割合が多かった。

「豊かな心を育むひまわりプラン」にある「ごまっ子八つの誓い」には、「約束や決まりは、いつでもしっかり守ります」というものがあります。さまざまな人がお互いを大切にし合い、気持ちよく生きていくためには、基本的なルールや礼儀を守っていくことが必要です。その上で、互いの考えについて、視野を広げ、考えを深めながらすり合わせていく日々の努力が、よく行われてきている結果だと思えます。学校や家庭、地域において、あらゆる機会での指導が実を結んだものと思えます。

◇「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強しますか（塾、家庭教師を含む）。」との問いに対して、「3時間以上」と答えた生徒の割合が多かった。

第2期座間市教育大綱では、新たに「家庭教育への支援」を施策の一つに掲げています。家庭教育がすべての教育の出発点であると認識し、学校や地域と連携しながら、家庭の教育力の充実に必要な取組について支援していきます。

生徒は、部活動や習い事など日々慌ただしく過ごしていると思われていますが、学習する習慣が継続されていくことは、成長著しいこの時期に大切なことです。今後も時間を有効活用し、充実した学習時間の確保を継続してお願いいたします。

◇1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と答えた生徒の割合が多かった。

中学校では、小学校で培われた「自分なりに考えていることや、感じていること等を、わかりやすく相手に伝わるように発表する」力をさらに伸ばしていくことが、楽しみでもあり、責務でもあります。自身の思いを相手と正確に伝え合うことは、自己有用感も育てます。また、座間市教育大綱の中で取り上げられている「書く力の向上を中心とする確かな学力の育成」の観点からも、順序を整理し、より効率的・効果的に伝えることは、文章の構成力の向上とともに、書く力の向上にも結びつきます。このような日常的な取組が、生徒の自立した学校生活の土台づくりにもつながっていると思えます。

◇「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」との問いに対して、「1時間以上」と答えた生徒の割合が多かった。

読書活動は、生徒が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

本市では、各学校に図書館司書を配置し、図書の紹介や、調べ学習について援助を行うなど読書活動の推進を図っています。学校・家庭・地域社会が一体となって推進していくことが、幅広い知識を身に付け豊かな心を育むことにつながると思えますので、今後も生徒への働きかけなどの継続的な取組が大切です。

◆「将来の夢や目標を持っていますか。」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒の割合がやや多かった。

生徒が将来の生活や職業などについて考えるためには、自分自身を見つめ、様々な生き方や職業等について理解を深めるとともに、職場体験活動や職業講話などの機会を通して、自己の生き方についてじっくり考えることが大切です。学校・地域・家庭と目標を共有し、連携・協働して生徒を育てていくことが求められています。

学校では、今後も教育活動全体を通してキャリアの視点を大事にし、将来の生活や社会と関連付けながら見通しを持ったり、振り返ったりする機会を設けるなど工夫・改善に努めていきます。

◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒の割合がやや多かった。

「豊かな心を育むひまわりプラン」のなかで、「地域の方々との交流を通して、地域を大切にする心を育てます」という項目があります。また、座間市教育大綱の中でも、「地域とともに取り組む教育活動の推進」が掲げられ、学校では知恵や体験の伝承、地域社会活動への子どもたちの参加など、地域との交流を大切にした教育活動を展開しています。

学校・家庭双方で、生徒が地域の行事に参加できるような配慮とあわせて、より積極的な参加を促すよう声掛けを続けていただければと思います。